

## 2015(平成27)年度 春季 学生チャレンジ制度 認定企画一覧

No.	団体名	人数	企画タイトル	企画目的概要	奨励金額
1	竹端 寛 ゼミナール	5	誰もが暮らしやすい街づくり ～地域安全マップ作り～	<p>私たちのグループは、大学2年生である今、山梨の地域の安心・安全を守るために自分たちができることはないかと考えた。山梨県の刑法犯認知・検挙状況として刑法犯総数は減少している。しかし、凶悪犯や風俗犯、その他(器物損壊)など地域に直接関わるような犯罪は窃盗犯に比べると少ないように思えるが、決してゼロではない。そして、非行少年の検挙・補導数も少なくはない。</p> <p>そうしたことから、誰もが暮らしやすい安全な街づくりのために、本学がある酒折地区の地域安全マップ作りを行い、地域に住む子どもたちや高齢者の方々がさらに住みよい街づくりを目指す取り組みを行う。酒折地区の地域安全マップ作りは、本学附属小学校の児童と共に行う。児童にアンケートを行い、被害防止能力や地域への愛着心などを測定する。(アンケートはマップ作成前と作成後、その一か月後を予定) 地域安全マップの作成方法や地域安全マップは学園祭で展示し、地域の安全や安心に関心を持ってもらう機会を設ける。また、マップ作成時に実施したアンケートを基に研究を行う。完成した地域安全マップは、附属小学校の児童たちに配布し、地域安全について知ってもらう。</p>	¥30,000
2	竹端 寛 ゼミナール	5	変えろ! 貧困やひきこもりへの 先入観!!	<p>私たちのグループは、竹端先生担当の地域福祉論の講義を通して、ホームレスやひきこもり経験のある方からお話をうかがい、引きこもりやホームレスについての真実や社会的な問題点について学んだ。ほとんどの人は、「私は普通に生活を送っている」、「抱えてる問題はない」など、自分はひきこもりになどならないと思っている。私たち5人も例外ではなくそう思っていた。しかし、私たちも決して他人事ではなく、この先就職活動や様々な社会生活を経験していく中で、ひきこもりになりうる可能性を少なからず持っていることに気づいた。</p> <p>そうした可能性があることやひきこもりの方からお聞きして気づいた真実や問題点を1人でも多くの人々に知ってもらいたいと思い、政治行政学科の竹端ゼミの5人でひきこもりやホームレスをはじめとする社会問題をテーマと掲げ、活動を実施しようと決心した。そのために夏休み等を利用し、フードバンクで実施している炊き出しやひきこもり大学に参加し、ホームレスやひきこもり経験のある方から実体験や問題点、心の声を聴き、身近に潜む可能性や真実を発信していきたいと考えている。また、学内の発信は、ビラ作成や樹徳祭を通じていきたいと考えている。山梨県内には、山梨日日新聞やラジオ等のメディアと連携し、発信しようと考えている。</p>	¥70,000
3	江藤 俊昭 ゼミナール 市民教育班	8	18歳選挙権を政治参加の スタートに ～高校生から始まる1ページ～	<p>近年、若者の選挙離れが社会問題となっている。投票率は現在低下傾向にあり、とくに20代の投票率は全年齢と比べて大幅に低い。その原因として、他人任せになってしまうという現状がある。また、今まで日本の教育は政治のシステムに関して多く教えてきたが、実際には政治的・社会的な問題を取り上げ、議論を展開して判断力を養うような教育が行われていなかったと考えられる。国や地方の政治の代表者を選出するのが選挙であり、自分たちの生活に直接関わってくるという認識を持つことが若者には必要である。</p> <p>6月17日の今国会で、選挙権年齢を18歳以上に引き下げる改正公職選挙法が可決された。投票年齢が18歳以上になるにあたって高校3年生が選挙権を得ることになるので、高校生へのシティズンシップ教育(市民教育)を行いたい。若者への情報提供等を行うにあたっては、若者の気持ちや行動形態がわかるのは若者自身なので、若者を啓発の主体として捉え、若者が若者に働きかけることが必要である。</p> <p>このシティズンシップ教育では、政治参加における政党の理解、マニフェストの理解、政治的判断力の向上に繋げたい。また、高校生の政治的関心の向上、これからの投票率の向上を目指し、持続的な若者の政治参加に繋げたい。</p> <p>以上のことから、高校生に対して出前授業を行い、議会へも政策提言していきたい。また、持続的に若者が政治に関心を持てるように毎年本学が開催する昭和町に対する施策提言に参加し、議会に対して有権者となる若者への市民教育の充実化を図る政策を提案していく。なお、この企画では、全国でも前例のない活動として、自前の出前授業とは別に、山梨県選挙管理委員会との連携による出前授業を実施することが決まっている。</p>	¥129,000
4	込山 芳行 ゼミナール	21	来るべき食糧危機に備え、 原始産業を再発見する	<p>食糧危機とは食料不足が危機的状況に達すること、つまり、食料の不足により食料を消費する社会全体に影響を及ぼし、社会体制の現状維持が難しくなることである。21世紀初頭の現時点で、地球温暖化による機構変動、世界的な異常気象による不作、食料自給率の低い地域が貧困に陥り、食料輸入が困難になると、バイオ燃料への過剰な転換による食料生産能力の低下が懸念されている。日本の食料自給率は約40%と極めて低く、もし仮に貧困に陥ってしまうと食料輸入が困難となり、食糧危機を迎えてしまうだろう。</p> <p>そこで、込山ゼミナールでは「来るべき食糧危機に備えて原始産業を再発見する」というテーマの下、実際に農業体験を行い、原始産業の再発見を行おうと試みる。</p> <p>耕作放棄地の面積率が全国上位である我が山梨県では、およそ5,785haという膨大な面積の耕地が無駄になっている。そこで、耕作放棄地を借り、さつまいも、大根、白菜等の農作物を育て、収穫をする。収穫した農作物は樹徳祭で販売をするほか、福祉施設に寄付をする。なお、本活動で生じた収益は東日本大震災復興への寄付に充てる。</p>	¥200,000

No.	団体名	人数	企画タイトル	企画目的概要	奨励金額
5	長野県人会	11	特産品コラボでHit商品開発	<p>長野県の「食」をPRするとともに、山梨県や静岡県とコラボレーションしたHit商品を開発したい。山梨県を含む中部地方には、豊かな自然に囲まれその土地の気候や風土を生かした特産品が数多くある。代表的なものとして、山梨県はワイン、長野県は信州そば、静岡県はお茶などがある。今回は、それらの特産品を使用して新しいそばを開発する。本企画を通じて、長野県を中心としたそれぞれの県の「食」について紹介し、その良さを知ってもらうことを目的とする。そして、大学で学んだマーケティングの知識や技術を活用してHit商品を生み出していきたい。</p> <p>信州そばを中心に商品を開発していく。そのために、味などのアンケート調査を実施する。アンケート結果をもとに、味・ターゲット・商品コンセプトなどを考える。また、県内のワイナリーを訪問したり、本学健康栄養学部にワインに含まれるポリフェノールなどの効果について話を聞き、県産ワインを使ったそばの開発も考えたい。その後、開発したそばに合うお茶を静岡で探す。さらに、夏休み中にメンバーでそば打ち体験をし、実際にそばがどのようにできるのかを学ぶ。そば打ち道具なども購入してそば作りの練習を行い、最終的には学園祭での販売を検討している。</p>	¥80,000
6	きっかけバス山学	5	3.11から学ぶ 学生が作る防災訓練	<p>毎年9月1日は防災の日である。そして、その前後一週間は防災週間であり、地域では防災訓練が実施される。しかし、訓練に参加してみると、子どもと高齢者が参加者のほとんどであり、私たち若者世代の参加者はほとんどいなかった。だから私たちは、若者世代に「参加したい」と思わせる防災訓練を企画した。防災訓練を通して、災害に備えることを当たり前の感覚として実行できる人を増やしたいと考える。また、来場者が防災の知識や経験を持つことで、山梨県内における災害時に周囲の人をお互いに助けられるようになること、また、経験から生まれる自信によって落ち着いた行動をとってもらうことが目標である。</p> <p>具体的には、防災の日以前（8月下旬の実施を予定）に、若者に向けた防災訓練を行う。ロープワークを交えたレクリエーション、非常食の試食、震災を経験された講師による防災講和、来場者を交えたディスカッションを行う。来場者に防災の意識を高めてもらうために楽しくかつ実用的な内容とする。なお、参加者には、簡単に災害に備えることをテーマにした非常食や巾着を配布する。</p>	¥150,000
7	根津 美智子 ゼミナール	4	身近なもので作れるソーラー クッカー（非常時に備えて）	<p>近年、自然災害が増加している。非常時に温かい食物を食べられることは幸せなことであり、復興への源ともなる。本企画では、家庭にある身近なものを使用して、太陽光を利用したソーラークッカーの基礎実験を行うことを目的とする。ポウルや発泡スチロール、中華鍋などを利用したソーラークッカーを作りたい。</p> <p>太陽光を用いてポウル、発泡スチロール（アルミを貼ったもの）、中華鍋、鏡などを使用した手作りソーラークッカーを作成する。6月から7月にかけて、晴天の日の午前9時30分から午後0時30分までの基礎実験（鍋内の水温調査）を行う。また、8月から9月にかけては、それらを利用した調理実験を行う予定である。その後は外気温が低くなるため、実験データのとりまとめや報告書の作成を中心に行う。</p>	¥41,000
8	伊藤 美輝 ゼミナール ・ 遠藤 清香 ゼミナール 2年生	27	子どもたちの造形環境の提案/ 学内における造形ワーク ショップの実践	<p>子どもたちが造形に取り組める機会は、造形に関する授業時数の減少及び子育て家庭の状況や環境を考えると、決して豊かとはいえない。山梨県立美術館における「つくろう あそぼう造形広場」への参加者は毎回100名を超え、山梨県内から来場する。「毎回参加したいが、会場が遠いのもう少し近くでこのような機会があれば」という声を聞くことがある。</p> <p>そこで、本短期大学21号館図画工作室を会場にした造形ワークショップを実践し、学内におけるワークショップモデルを作る基礎を作りたい。</p> <p>対象は、幼児から学童として実施して具体的な提案を行いたい。また、障がい児も参加できる環境にも考慮して実施することで、誰でも参加できるワークショップのあり方を模索していきたい。</p>	¥60,000

## 2015（平成27）年度 秋季 学生チャレンジ制度 認定企画一覧

No.	団体名	人数	企画タイトル	企画目的概要	奨励金額
1	考古学研究会	5	甲斐の古道 ～鎌倉街道の歴史の探求～	<p>考古学研究会では、秋季学生チャレンジを活用し、「街道」を軸にして文化や民族を研究していく。今回はこれまでの研究の続きと位置づけ、「鎌倉街道」にある道祖神、石造物、遺跡、神社、寺院等の調査や記録を行う。記録上最も古くから登場している鎌倉街道であるが、この街道の調査も終盤に近づいている。</p> <p>今年は山梨県外にも調査の手を広げ、民族行事、伝承、写真などの調査や情報収集も行う。そして、山梨学院創立70周年事業の一つ「甲斐の古道公園」建設にあたり、「甲斐の古道プロジェクト」の一環として、行政機関や市民団体と連携しながら、地域の人たちや文化と交流してまちおこしに活用する。</p> <p>具体的には、山梨県教育委員会の報告書などの文献を基に、調査対象の古道について理解を深め、現地調査を行い、現状をまとめる。10月までに鎌倉街道の調査、御坂峠の登山調査などを計画している。11月以降に鎌倉街道の補足調査を計画している。また、12月には山梨県外にある人穴を調査する計画である。調査の内容は、鎌倉街道沿いにある石造物や文化財、遺跡などの実測や地域住民からの聞き取りを中心に行う。</p>	¥200,000
2	青山貴子 ゼミナールTFT班	8	エームサービス×青山ゼミTFT弁当 ～学食で健康に！学食で社会貢献～	<p>私たち青山ゼミは、ソーシャルビジネス/コミュニティビジネスをテーマとして活動し、学びを深めている。今年度前期から、TFT (TABLE FOR TWO) の活動について関心を抱き、TFTに関する資料、文献などで調査を行ったり、今年6月には、実際にTFT活動に取り組んでいる企業を訪問し、お話を伺うなど知識を積んできた。そこで今回、私たちが先駆者となり、本学にTFTを導入したいと考えている。</p> <p>本企画では、ヘルシーな学食提供を通じて、学生に食生活や健康を考えるきっかけを与えると同時に、TFTについて認識、理解、そして参加してもらうことにより社会貢献活動への意欲の醸成を目指す。今回は初めての取り組みとなるので、TFTを取り入れるきっかけであるが、これを機に学内に広く知ってもらい、将来的にはTFT活動という文化が学内に根付くことを目標とする。</p> <p>企画の概要は、TFTが定めた基準 ①カロリーが730kcal程度 ②栄養バランスが適正 ③野菜が多め を満たしたメニューの弁当をエームサービス様の協力を得ながら開発し、本学の学生食堂において販売する。また、募金箱を設置して集まった募金と、売り上げた弁当1食につき20円の寄付金をTFT事務所に送る活動を行う。</p> <p>※ TFT (TABLE FOR TWO) とは... 開発途上国の飢餓と先進国の生活習慣病や肥満の解消に同時に取り組む日本発の社会貢献活動である。先進国の私たちと開発途上国の子どもたちが、時間と空間を越え食事を分かち合うというコンセプトに基づき、TFT商品1食の売り上げのうち20円分がアフリカやアジアに寄付金として送られ、子どもたちの給食に充てられるという仕組みになっている。2007年に創立され、今や650を超える企業や大学などの団体がTFTプログラムへ参加している。</p>	¥50,300
3	張華 ゼミナール	12	現代ビジネス学部の魅力調査	<p>近年、現代ビジネス学部の志願者が少しずつ減少していることに私たちは危機感を覚え、自分たちが志願者の増加に貢献できないかと考え、今回の学生チャレンジに応募した。</p> <p>オープンキャンパスに来てくれた高校生に、在学生の目線で現代ビジネス学部の魅力をわかりやすく伝え、受験するきっかけにしてもらうのが本企画の目的の一つである。</p> <p>そのために、まず学部の魅力をもう一度確認する必要があると考え、在学生への調査を実施することにした。また、調査で確認できた現代ビジネス学部の魅力を、来年度の大学案内（入試パンフレット）に反映させたり、高校生に紹介したりすることも検討している。さらに、学生自身が在学生へのインタビュー調査やアンケート調査などの情報収集を行う活動を通じて、情報分析力を養うことができたり、現代ビジネス学部の魅力を再認識することができる。</p>	¥20,000
4	太郎良留美 ゼミナール	13	簿記チューター制度 (簿記学習における教員の補佐)	<p>私たち太郎良ゼミは、簿記や会計を学ぶゼミである。通常のゼミやゼミ合宿では、簿記や会計を教員から教わるだけでなく、簿記の学習が進んでいる学生が簿記の初学者の学生に対して、マンツーマンで支援する学習サポート制度を採用して学習を進めている。例えば、日商簿記1級・2級合格者が、2級・3級の受験希望者に個別指導を行っている。また、支援にあたる学生は、指導役を担当することを通して、他人に教えることの難しさや教え方を工夫をする体験をしている。</p> <p>私たちはこのような支援体制を、簿記学習で困っている様々な学生に提供できれば、大学全体の簿記授業の理解に手助けができ、簿記検定の合格を目指す学生も増えるのではないかと考えた。簿記の授業についていけず、困っている学生もたくさんいると考えられ、特に留学生はサポートを必要としていると思う。ゼミ生のメンバーにも留学生がいるため、留学生の気持ちを理解しながらサポートしていくことができる。そして、チューターを担うゼミ生も、他人に教えることで自分自身の理解も深められる効果が得られると考える。</p> <p>さらに、この取り組みは、『YGU会計・税務研究会』発足の第一歩としたいと考えている。この『YGU会計・税務研究会』は、将来、公認会計士や税理士を目指す学生が集い、ともに励む団体を目指している。この団体設立が本学のクラブ・サークル活動の活性化にも貢献できると考えている。</p>	¥123,200

No.	団体名	人数	企画タイトル	企画目的概要	奨励金額
5	林有珍 ゼミナール	10	見つけた～山梨のホワイト企業！ (県内中小企業対象のサーベイの実施と企画提案)	<p>私たちは、本年度前期、林有珍ゼミにおいて、「企業と人の関係、労働と雇用」をテーマに研究を重ねてきた。パートタイマーの働く環境改善、女性人材活用、従業員のモチベーションなどについて調べながら、これから山梨の企業が目指すべき姿について話し合った。</p> <p>そこで、近年話題になっている「ブラック企業」をきっかけに、その反対側にある、人（従業員）を大切に「ホワイト企業」とはどのような企業なのかについて問題意識を抱いた。この山梨に、人が成長でき、多様な価値観を持つ従業員が歓迎される企業が増えて欲しいという願いも込め、実際の企業の現状を把握し、課題解決に向けて分析していきたいと考える。</p> <p>この企画が実行されることで得られる利点として、次の3点を挙げる事ができる。第一に、本と授業、ゼミで学んだ知識を実際の場面に生かす経験ができる。第二に、サーベイの質問項目の作成、封筒詰め、回収と分析などを我々の力で行うことで、社会を見る目を養うことができる。第三に、得られた分析結果を通じて協力企業にフィードバックを行うことで、実際の企業側に多少なりとも貢献ができ、地域社会との連携が保たれる。</p> <p>具体的には、「ホワイト企業」とはどのような企業なのかを知るために調査を行う。先行研究を踏まえ、私たちは企業のタイプを4つに分けることができると仮説を立てた。この4つのタイプに山梨県内の企業がどのように当てはまるのか調査を行う。調査対象は、山梨県内の企業266社（山梨県・山梨県中小企業団体中央会編「2016年度新卒者就職応援企業ガイドブック」利用）とする。調査方法は、アンケート用紙を作成し、11月下旬を目処に対象の山梨県内の企業にサーベイを実施する。</p>	¥122,784
6	立石貴子 ゼミナール	13	山梨学院大学 Revolution ～新生現代ビジネス学部による 観光の「おもしろさ」の発信～	<p>本学創立70周年に向けて、【現代ビジネス学部と経営情報学部の発展的統合】や【2015年度国際リベラルアーツ学部新設】、【2016年度スポーツ科学部新設】により、新生山梨学院大学の道が拓けてきている。</p> <p>そこで、私たち現代ビジネス学部の学生が本学を世の中に今よりもっと周知させるべきだと考えた。しかし、2016年度入学生からの学部横断型副専攻(CMP)の廃止により、現代ビジネス学部以外の学生が観光業について学ぶ機会が少なくなってしまうのではないだろうか。そこで、立石ゼミの観光・ホスピタリティという特色と現代ビジネス学部の学生目線で実体験を積める学部として、観光教育を発信させ、未来ある若者に「観光事業に携わりたい!」と思ってもらえるような、影響を与えられるような宣伝活動をする必要性を痛感している。</p> <p>2020年には東京オリンピック・パラリンピックが開催される。それに伴い、インバウンドの増加が見込まれる。山梨県は観光立県「富士の国やまなし」を掲げているため、2020年を視野に入れ、観光客を迎え入れる体制を整えるべきだと考える。しかし、「行政に頼りきっているだけでいいのだろうか」と疑問を抱いた私たちは、観光事業に携わる人材育成が必要だと感じた。そのような優秀な人材を山梨県の観光地各所や全国・世界に排出できるような学生が本学の新生現代ビジネス学部から巣立って欲しい、まずその第一歩として、本学現代ビジネス学部の周知を学生からするべきだと考える。</p> <p>具体的には、『学生FDサミット2016春(2016年3月12日・13日 日本大学主催)』に参加する。全国の大学生の活動を見聞し、学生の実態を理解し、私たちのゼミナールでの活動の課題を再発見して今後の活動に活かしたい。</p> <p>また、山梨県の観光地について記載したパンフレット『Stand up Strong Stone(SSS) (仮)』を作成する。観光のタイムスケジュール例や観光地の豆知識などを地図や写真を使いながら紹介する。このパンフレットは、山梨県内の様々な観光施設などに設置してもらうことを予定している。さらに、現代ビジネス学部のアピールと立石ゼミの活動内容を紹介する『現代ビジネス学部紹介ビデオ』を作成する。</p>	¥94,300
7	入江省熙 ゼミナール	14	続・夢小路活性化計画 ～人で溢れる‘粋な’まちづくり～	<p>甲府駅北口にある『甲州夢小路』という商業施設の活性化、並びに夢小路を中心にした甲府駅北口全体の活性化を図ることを目的とする。昨年の活動から1年経った夢小路の現状を調査、把握しながら、夢小路とそれを中心にした甲府駅北口がいつも人で賑わっている活気溢れるまちづくりを目指したい。</p> <p>まず、アンケートや実地調査、他県と同じようなモデルの調査を行い、現在の夢小路の改善点を考えたい。そして、問題解決のための手段として、イベントの開催を考えている。イベントの企画については、株式会社タンザワ様、山梨中央銀行様と連携して具体的な内容を考察していく。また、イベントの開催によって、夢小路にどのような変化が起こったのかを報告する場を設け、活動のまとめをしたいと考えている。</p> <p>具体的には、夢小路を中心とした甲府駅北口での子ども向けの参加型スポーツイベントの開催である。本学の特色である「スポーツ」と、夢小路のコンセプトである「日本文化」を融合したイベントとしたい。子ども向けの参加型スポーツイベントにした理由は、現在の夢小路のターゲットである中高年の人たちに加え、子育てをする若い世代の親をターゲットにしようと考えたからである。これは、イベントに来た子どもの両親が夢小路の存在や雰囲気の良いさを知り、休日の利用に加えて、平日の息抜き場としても利用してもらえればと考えたからである。また、子どもに日本文化を学ばせるという付加価値がつくことで、イベントに参加する子どもの数を増やす効果もあると思う。</p> <p>また、イベントの形として、夢小路や甲府駅北口で行われる既存のイベントに自分たちのイベントを組み合わせるにより、イベントに幅が生まれることや更なる集客効果につながる事が期待できる。</p>	¥120,000



No.	団体名	人数	企画タイトル	企画目的	概要	奨励金額
8	S.A. 支援プログラム制作チーム	4	メンテナンス機能付きスチューデント・アドバイザー支援プログラムの作製	先輩学生である在学生在が新生の履修相談に乗る、現在のスチューデント・アドバイザー制度では、3年前からアドバイザー支援プログラムが導入されている。しかし、この支援プログラムにはいくつか問題点がある。 それは、その年度は使用できるものの、年度ごとにデータを更新する必要があるということである。開講時間の変更や担当教員の変更、新規開講科目の追加や削除などを行う必要があり、現在は毎年度、教員やプログラム開発者によってデータの更新を行っている。しかし、2016年度から経営情報学部の入学生がいなくなることから、経営情報学部の学生による更新ができなくなるおそれがあり、支援プログラムのメンテナンスができなくなる可能性もある。 そのため、現場のスチューデント・アドバイザーなど、プログラム開発者以外の学生でもソフトの書き換えができるようにする必要がある。したがって本企画では、今後も支障なく支援プログラムが使用できるよう、現在の機能を失うことなく、この支援プログラムを基に誰でも簡単に更新ができるメンテナンス機能を追加した改良型スチューデント・アドバイザー支援プログラムを作製し、スチューデント・アドバイザー制度にて本運用を行うことを目的とする。 また、共同製作者は、入力の補助やバグの確認、動作チェックなどを行い、来年度のスチューデント・アドバイザー制度において実際に運用できるようにする予定である。		¥40,000
9	健康栄養学部 管理栄養学科1年	54	「地域の食と健康」を取り巻く課題の実態調査と課題改善への提案	私たちは前期の基礎演習において、「地域の食と健康」をテーマに、各自が調査を行い、小論文作成を進めてきた。しかし、調査を行ううちに、それぞれの地域で行われている食育活動やその地方の食文化に関して、まだ私たちが知らないことが沢山あることを実感した。私たちは今後、どのような知識や情報を得て、どのように発信していくか、その地域にある課題をどのように改善していくかを考えていく必要があると痛感している。また、私たちは、自分たちが生活している地域や近隣地域の健康に関する課題を解決する取組み、食材を活用した郷土食や食文化の良さを継承していく取組みを行っていく必要があると考えている。 そこで、前期の小論文作成の過程で興味を持った地域の食の特徴や健康課題について、現地調査やレシピ作成などを行うことにより、地域の食に関する新たな発見や健康課題に対する具体的な解決策を提示・提案したい。 具体的な活動として、3~5名のグループごとに設定した課題について調査研究を行い、研究報告書を作成するとともにポスター発表会を行う。 すでに15グループに分かれ、「山梨の農作物を生かした健康料理の創作」、「山梨・長野・静岡の郷土食の特徴の比較」、「生活習慣病予防と山梨県の食生活」などの各調査課題（仮）を設定し、調査計画の立案を始めている。また、本活動で得た知識や提案の提示力を、山梨県内で開かれる食育推進活動や地産地消運動にボランティアとして参加する際に活用するとともに、管理栄養士として実務を行う際の基礎技術としてさらに発展させていきたい。本活動は、健康課題に対する管理栄養士としての視点を高めることができる非常に意義のあるものと考えられる。		¥184,000
10	深澤早苗 ゼミナール	4	「健康な食事」（平成27年9月厚生労働省発表）にトライアル～主食・主菜・副菜をそろえて650kcalの食事～	厚生労働省は、平成27年9月9日、健康寿命の延伸に向けた食生活の改善と社会環境の整備を推進することを目的として、『日本人の長寿を支える「健康な食事」の普及について』と『生活習慣病予防その他の健康増進を目的として提供する食事の目安の普及について』を発表した。 ここでは、「健康な食事」の基礎となる主食・主菜・副菜を組み合わせた食事の推奨と、生活習慣病予防やその他の健康増進を目的として提供する食事のレシピ考案や料理教室のメニュー等の参考にする目安が示されている。 食事は、料理Ⅰ、料理Ⅱ、料理Ⅲで構成し、「一般女性や中高年男性で、生活習慣病の予防に取り組みたい人向け」の目安を、エネルギー650kcal未満、主食（料理Ⅰ）は穀類由来の炭水化物40~70g、主菜（料理Ⅱ）は魚介類・肉類・卵類・大豆、大豆製品由来のたんぱく質10~17g、副菜（料理Ⅲ）は緑黄色野菜を含む2種類以上の野菜（イモ類、きのこ類、海藻類も含む）120~200g、食塩相当量は3g未満と定義している。 このような基準を具体的な料理や献立に仕上げるのができるのは、管理栄養士や栄養士の専門職者である。この発表は9月に発表されたばかりで、発表資料には具体的な献立例がない。また、基準に沿って作られた料理や食事のレシピは見当たらない。 そこで、私たちはこれまで学んできた専門知識を活かし、この基準でどのような献立が作成できるのかトライしたいと考えた。レシピを考案する際には、山梨県の郷土食や伝統食等も取り入れてみたい。また、提供できるレシピを完成させた後、リーフレットやパンフレットを作成し、栄養士を目指す本学学生の学習教材として、また、山梨県栄養士会や山梨県民に配布・紹介することで、食生活の改善に寄与したいと考える。		¥80,000

## 2016(平成28)年度 学生チャレンジ制度 認定企画一覧

No.	団体名等	人数	企画タイトル	企画目的・概要	奨励金額
1	考古学研究会	6	甲斐の古道 ～中道往還の文化史～	考古学研究会では、これまで「甲斐の古道プロジェクト」と題して、甲斐九筋(かいくすじ・甲斐の9の道)と呼ばれる街道のうち、青梅街道、秩父往還、鎌倉街道、若彦路の四つの街道の文化や民族を研究してきた。今回は、五つ目の街道として、甲府と静岡を結ぶ古道、中道往還を対象とし、民俗行事、伝承、写真などの調査や資料収集を行い、報告書を作成する。これらの報告書は、将来的には、山梨学院創立70周年事業の一環として建設予定の「甲斐の古道公園」に展示を予定している。	¥240,000
2	山梨学院援農プロジェクトチーム	10	山梨学院援農プロジェクト	山梨県内には多くの農業従事者が活躍している。その反面、従事者の高齢化問題、後継者不足など様々な問題が山積みである。そこで私たちは、実際に農家に出向き、農作業に携わり少しでも力になり、葡萄栽培の繁忙期を体験する。その上で、上述の問題について、実態を把握し、調査研究を行い提言を行う。	¥85,000
3	江藤ゼミナール 市民教育班	10	日本の未来に挑む若者たち ～マニフェストのその先へ～	本年の夏の参議院選挙から18歳選挙権が実施される。しかしながら世論調査によると、18歳、19歳人口の半数以上が無関心であると回答している。この現状を変え、日本の未来を担う若者を育むべく、高校生・大学生を対象とし、社会参加の重要性を伝える、市民教育を実施する。具体的には、選挙管理委員会と共同での県内高校への出前授業、政策討論会の開催、選挙管理委員会へのヒアリング調査、学園祭ブース出展など、様々な手法で、啓蒙活動を行う。	¥240,000
4	小菅ゼミ	16	「山梨学院歌舞伎・酒折座」を 旗揚げする	「日本文化」をテーマとして近現代日本について実践研究していく。具体的には「文化の塔を樹つる」(山梨学院校歌より引用)こと、創立70周年に際して新たな山梨学院大学を創ること、地域社会への文化貢献と国際文化交流の促進を目指して、新プロジェクト「山梨学院歌舞伎・酒折座」の旗揚げをする。「日本文化」のうち高尚な文化に触れるには多額の費用が掛かる場合が多い。また、実務研究となると、一般的に歌舞伎や能などの習得には十数年と膨大な時間が必要となる。このような現状を打開するため、歌舞伎を多くの若い人たちに体験してもらべく、12月に演目「藤娘」の公演を実施する。	¥485,600
5	Tomos	7	地域のつながりを、 その一歩先へ	自分たちにとっての居場所と思えるような場所を家庭や学校だけでなく地域にも広げていきたいと思い企画した。また、子どもたち一人一人が自分の未来に希望が持てる社会を目指し、この活動を行っていききたい。概要としては、これまでのボランティア経験を活かし、まずは各地で無料学習塾や子ども食堂の取り組みを行い、その取り組み中に他地域で研修を行い、山梨に合う方法を見つける。	¥106,000
6	伊東ゼミ × 食物栄養科 フードクリエイティブコース 2年生	41	「山梨の魅力をパンとともに」	伊東ゼミとフードクリエイティブコースの協働でパンの商品開発を行う。具体的には、山梨学院大学の学生を対象とした調査や小売店舗でヒアリングによってパンに対するニーズを探索し、その調査結果を基に、商品コンセプトを決め、試作(商品開発)を行う。開発したパンは樹徳祭で販売し、その反応を分析した上で、最終的にはパン製造小売業者にレシピ提供を行い、プロの現場での製造と販売に繋げる。	¥145,777
7	履修登録支援 プログラム作成 チーム	2	Webアプリ版履修登録 支援プログラムの作成	現在履修登録支援プログラムは使用場所が限られていることや、Microsoft Office Excelがインストールされていないと使えないといった問題点がある。そのためにWeb上で使えるよう、Webアプリを作成する。これにより「いつでも、どこからでも使用が可能」となる。	¥50,000
8	梅の機能成分研究会	2	山梨県産の「梅」を使った 新たな特産品の開発	生活習慣病の発症原因として食習慣やストレスが挙げられる。なかでも健全な「食習慣」の確立は生活習慣病を予防する点で大変重要である。私たちは食事由来の栄養成分が生活習慣病の発症や老化などを予防する効果に興味を持ち、授業外の時間を利用して山梨県産果樹のもつ抗酸化作用について実験を進めてきた。するとブドウと同じくウメにも強い抗酸化作用のあることが明らかとなった。そこで、ウメの抽出液を線虫(C.エレガンス、1mm程度の細長い多細胞生物)の培養系に添加し抗酸化能に起因する寿命延長への効果について検討を進めたところ、みごと寿命延長効果のあることを突き止めた。そこで次に、私たちはこれらウメの持つ健康効果を単に研究の領域で終わらせるのではなく、山梨県民の健康に寄与すべく社会に還元していきたいと考えている。それにはウメを使った新たな特産品の開発や提案が必要と考えている。県内にはモモやブドウを用いた特産品は多いが、ウメを用いた特産品はほとんど存在しない。食品の加工実習など授業で得られる知識と技術を十分に活用して取り組んでいきたいと考えている。また、ウメを使った食品は限られるため、料理への応用や新たな食べ方などの提案もよいと考えている。是非、私たちの見出したウメの機能性から山梨県の健康寿命日本一を目指していきたいと思う。	¥98,000
9	遠藤清香ゼミナール	15	病院で星空と映画を見よう	小児科病棟には、病気で入院している子どもたちがいる。私たちは、入院中の子どもたちに楽しい時間を過ごしてもらいたいと考えた。この企画では、外出して遊びに行くということがなかなかできない入院中の子どもたちのところに私たちが向かって遊び相手になる。まず、授業のない時間に病院のプレイルームに行き、保育科で学んだことを生かして、子どもたちに遊びを提供する。そして冬休みには、院内でプラネタリウムと映画の会を行う。	¥75,000